大桑村総合教育会議　会議録

開催日時　　令和８年２月 18 日（水）午後１時 24 分から午後２時 50 分まで

開催場所　　特別会議室

出 席 者

村長	坂家　重吉	教育長	野知里　浩寿
教育長職務代理者	白木　　正	教育委員	松尾　輝明
教育委員	石其　　正	教育委員	細田　　愛
大桑小学校長	小林　孝基	大桑中学校長	小林　博樹
大桑保育園長	鈴木　昌司	教育相談支援員	池井　克己
教育次長	輿野　　敦	子ども教育係長	枠本　智生

会議日程

１．開会

２．村長挨拶

３．会議事項

１）令和８年度における教育（保育）方針等について

・大桑小学校

・大桑中学校

・大桑保育園

２）その他

４．閉　会

教育長　　予定した時間より少し早いですが、皆さんお揃いでありますので、始めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。本日はそれぞれお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。日頃は、村の教育行政にご尽力をいただきましてありがとうございます。この場をお借りいたしまして感謝を申し上げたいと思います。それではただいまより大桑村総合教育会議を始めたいと思いますよろしくお願いします。最初に村長から挨拶申し上げます。

村　長　　どうも皆さんこんにちは。それぞれ大変お忙しいところを当村総合教

育会議にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。約 10 年ほど前になるかと思いますが、法改正があり、ちょうど私が教育長の時だと思いますが、その背景には、凄惨ないじめに関わる事案があって、そんなことから、教育委員の皆さん、教育関係者だけではなくて、自治体の首長も同じ責任を持ちながら対応しなさいということから法改正があったかと思います。一昨年の 10 月から私この立場になって、私自身もバタバタしていましてこの立場になって初めての総合教育会議になろうかと思います。私が召集の責任を負っておるわけで、その間関与できなかったことを改めてお詫びを申し上げますとともに、村の行政あるいは教育行政全般にわたって皆さんにご尽力いただいておりますことに改めて感謝を申し上げるところであります。今年度、小学校の音楽会や運動会、それから中学校の総合発表会を見させていただいたり、保育園へ行くと子どもたちがよってきて、いろんなお話をしてくれます。昔と違って、今の子どもたちは、語彙が豊かだと思っています。あんなかわいい子たちがすくすくと綺麗な心のまま大きくなってるといいなと思っておるところであります。私一昨年この立場になって、7 年度に向けて予算作りをやっていくときに、本当は改めてお詫びを申し上げなければいけないなと思っていることは、給食費の無料化とか、奨学金の問題をこの総合教育会議に本当はお諮りをして、皆さんの意見を聞いて進めるべきだったのかなということを改めて思っているところです。これからも様々なことをやっていくときにも、教育長通じながら、様々なご意見を伺っていきたいと思います。今、住民の皆さん方の意見を聞いてますと子育てには本当にお金がかかるんだと、そういった軽減策もやっぱりやってほしいということは私のところに寄せられていたものですから、また当時現役の高校生が大学行きたいんだけど、返さなくてもいいような奨学金なんとかしてよっていうような話もあったもんですから、私も少し急いで進めたところもあります。また、給食費も義務教育が終わるのが早いところから中学校から始めに無償化をしていこうということでしたわけですが、今回、国の方では小学校の方の無償化といいますか、それを進めようとしております。私もこの場でありますけれども、正直なところ申し上げますと、つい先だっても市民タイムスの月見櫓という欄に無償化の是非、無償化がいいのかどうなのかというようなこともちょっと意見を書いてありました。私自身も、親の責任、そういったことを考えたときに、ただ無償化するってことは本当にいいのかどうなのかっていうことは、私の中でも迷いはあることは正直な気持ちであります。しかしそういったことは援助できるところは村が援助しながらも、他にかかるところに家庭ではお金を使っていただければいいのかなと。そういったことが本当にそういう人たちに村の意向や皆さんの先生方の意向が保護者や家庭に伝わっておるのかなということも私

自身もちょっと疑問に感じておるところであります。そのようなことで、本日様々なご意見をいただきながら、今後の子育てや教育環境の整備というようなことには何があっても最優先に対応はしていきたいなと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただくようお願いをしたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

教育長　　それでは会議事項に入っていきたいと思います。お手元の資料、次第に沿いまして、進めていきますのでよろしくお願いします。本日の議題につきましては「令和８年度における教育・保育方針等について」ということで、新年度に向けての対応について本日ご多用のところ、小中学校の校長先生、保育園長に御出席をいただいておりますので、それぞれの現状と基本的な考え方について伺いながらの会議としていきたいと思います。よろしくお願いをいたします。全国的に少子高齢化ということで子どもの数は年々減少傾向にあるわけで、大桑村におきましても出生数が 10 人前後となっているのが現状です。子育てに関するニーズについては時代とともに変化し多種多様で、教育、それから子育て支援の場においても、いろいろな対応が必要となってきているわけであります。村における現状を把握、共有しながら、教育の充実に取り組んでいきたいと考えますので、よろしくお願いをしたいと思います。それでは早速、令和８年度における教育方針等についてそれぞれ資料を用意していただいておりますので最初に小学校の方から説明をお願いしたいと思います。

小学校長　　大桑小の小林です。よろしくお願いいたします。皆様ご存知の通り、大桑小学校は希望を校訓として掲げております。この希望ですがそこの一番上にも書いてありますように、よりよく生きるために自ら考える。行動する子どもを育成する。ここが希望が目指す子どもたちの具体像じゃないかなと捉えているところです。現在の学習指導要領５年目に入っているわけですが、その学習指導要領で子どもたちに求められているのは、様々な課題を多様な人々と協働して解決の糸口を探り、自分なりのよりよい解を見出せる力を養うことそんなふうになっております。次期学習指導要領に向けて論点整理も今年度出されたわけですが、それを見ますと、次期学習指導要領についても、今行っている学習指導要領をさらに充実していくという立場ですので、今後もこのような力を子どもたちに養っていく必要があると考えているところです。そこで本校は目の前の課題に様々な人と協働しながら取り組み、自分なりの答えを見いだしたり、考えを練り上げたりする対話を中心とした協働的な学びに取り組みたいと思っております。この協働的な学びは他者の考えや思いを理解して、自分の考え等と比較しながら、より良い解を導いていくために、

他者の考えや思いを理解しようと寄り添って聞くことが大事だと考えております。そこで寄り添って聞く学校ということを教育理念として上げて取り組んでいるところです。昨年度から取り組んでいるところですが、先ほど言いましたようにこのような力が今後求められていくので、来年度も寄り添って聞く学校を教育理念として掲げて取り組んでいきたいと思っております。目指す学校像ですが、やはり学校の生活の大半を占めるのは授業ですので授業の充実が欠かせないと思っています。そこで授業作りこそが学校作りの根幹であるということを再認識して授業の充実を図っていきたいと思っています。教育理念にも挙げてありますように学びについても寄り添って聞くことを大事にしていきたいなと思っています。子どもたちがわからない言葉があればわからないって胸を張って言うことができて、周りの友達はそのわからなさに寄り添って聞いて一緒に考え、わからなかったとこはその説明してる友達の意見にしっかりと耳を傾けながら、わかるまでしっかりと聞く。このような授業を大切にしていくことで、良好な人間関係作りも期待されると思っているところです。対話が中心の授業を展開することによって学力の向上はもとより、友達を始めとする周囲の人々との互いを尊重し合いながら適切に関わり合う中で、１人ひとりが自分の良さを自覚して、自己の可能性を伸ばしながら夢や希望に向かって力強く歩んでいける子どもたちを育んでいきたいと思っております。今お話した内容が裏面それから２枚目のグランドデザインに図式化してわかるように示させていただいてあるものです。１枚目の裏のところの一番上には学校目標が書いてありますが、これも昨年度から変えさせていただきました。自ら学ぶ友と学ぶふるさとに学ぶ。学びを通した知徳体の総合的な育成ということです。このように学校目標を変えさせてもらったのは、現学習指導要領で求められている事業改善の方向主体的対話的で深い学び、それに沿って、主体的、自ら学ぶ対話的友と関わって学ぶ。深い学び、深い学びはやはり村の中で村の財に触れながら、学びが村と繋がっていくことを願ってふるさとに学ぶということで位置づけさせていただいております。教育課題ですけれども寄り添って聴く学校、そのために対話ということですので、子どもが対話したくなる授業を先生方目指してもらうということで、教育課題で挙げて現在も取り組んでいるところです。先生方もこれまで子どもたち全員黒板の方を向いて教科書を開き、先生は黒板にいろいろ描きながらこうだぞこうだぞというような授業を受けてきたし、これまでも実践してきましたが、今学習指導要領が大きく変わって、私も学校目標も変えて、こういう授業を目指すというように変えたばかりですから、先生方もまだまだ不十分な部分はありますが対話をさせる授業はどうしたらいいのかなっていうことを今考えながら、一緒に取り組んでいるところであります。そこに教育システムこんなふうに

して授業を進めていくよというようなこと書いてありますけども、対話を基盤として大桑小の授業スタンダードというのを作っておりますが、それに基づく授業作りそれから学校評価や自己研修テーマに関わる自己評価を主としたPDCAサイクル校長の方からこうしなさいっていうわけではなくて、ここに向かうためには自分たちは向えているかっていうことを自分たちで計画してチェックして振り返って、また次に活かす、そういうようなカリキュラムマネジメントで授業を改善していこうと取り組んでいるところです。それからふるさとの学びに繋がるんですけども、地域との協働システムオオクワガタコミュニティスクールの皆さんには本当によくしていただいております。目指す子ども像を地域の方々とも共有しながら子どもたちの育ちを支えていただければありがたいかなと思っておるところです。あとはご覧いただければと思いますが、以上簡単ですけども、小学校の来年度の教育方針について説明を終わらせていただきます。

教育長　　ありがとうございました。今、小学校の方から説明していただきましたが、何か質問等あればお願いしたいと思います。

出席者　　特になし。

教育長　　よろしいですかね。また後程、時間取りますので、進めたいと思います。では続いて、中学校お願いします。

中学校長　　中学校よろしくお願いいたします。表紙をめくっていただきますと１ページ目２ページ目と両方グランドデザインが載っています。１ページ目が来年度、令和８年度に向けてグランドデザインを作りました。２ページ目が令和７年度のグランドデザインです。大きく骨子になる部分は変えていませんが、これまで大桑中学校で大事にしてきたこと、それから子どもたちの様子、昨今の教育情勢なども加味して、少し整理をしようと思って１ページのものを作りました。下からだんだん上に上がっていくような形に作られているわけですが、一番下が小学校の学校目標があって下から２番目のラインボックスのところに大桑中の良さ強みがあります。今年度のグランドデザインの方は大桑中の教育課題になっていますが、課題という捉え方も大事なことではあるんですが、大桑中学校の良さとか強みって何だろうということで２学期の後半に職員と話し合いをする場を持ちました。生徒のこんな姿が素晴らしいよねとか、大桑中はこんなことができるよねってそこで出てきた意見を、かいつまんで書いたのがそこの良さ、強みになります。そういった子どもたちの良さをさらに伸ばしていくために、今までと同様「三智」を大事に学校

教育を進めていきたいと思っていますが、三智とは一体何なんだろうっていうのを少し整理して色分けをしてみました。緑色っぽくなっているところが学んで得る智に関係する。黄色っぽいところが人と交わって得る智。青のところが自らの体験によって得る智というように分けました。一番ベースになるのが黄色で書いてある一番下にある「人と交わって得る智」というところで、学校で人と交わる場合あるんですが、どの子にとっても居心地が良い空間でなければ全ての物事が始まらないと私は思っています。子ども１人ひとりがここにいて、大桑中にいて大丈夫って安心感が土台としてまずあって、大桑中の一員として居場所があるというそこを大事にして、そこがスタートかなと思っています。そのベースを大事にしながら、左側のラインボックスの中ですが、学んで得る智に繋がるためには誰にもわかるような授業を生徒とともに作っていくということかなと思います。今小学校の説明ともかぶってくるとこあるんですが、今までのように昔のように先生が主導でどんどん進める授業ではなくて、子ども自身が自分のこととして学習を捉えることができるような授業のあり方とか、子どもたちが自分で課題を見つけて友達と協働しながら解決していく場面を設定するとか、そういった授業ができないだろうかということを教師側は考えていく必要があると思ってます。それから一番右側のラインボックスですけれども、体験の部分はやはりオオクワガタコミュニティスクールがしっかり大桑村にはあるので、そこのお力を借りて地域との関わりを通しながら、大桑村と自分との関わりというものを意識しながら中学生なので、キャリア教育というところも色濃く出てくると思いますのでそんな地域との繋がりってことを意識して将来を見据えて自己理解に繋がっていくという姿があるといいのかなと考えています。真ん中にありますけども、子どもたちの育ちの姿ということで、この三つを考えてみました。まず「学んで得る智」理解し活用できる基礎的基本的な力というのは、簡単に言うと暗記すればいいやという学習ではなくてちゃんと理解していて、その理解したことを活用できるということを目指した授業をしていこうねっていうことです。それから真ん中そうやって学んだことを、人と関わることを通してより良くしていくっていうそういう姿とか姿勢みたいなものを身につけたらいいなと、さらにその先に郷土というもの大桑村というものを意識して今度自分の将来を見据えていくというそんな姿があるといいのかなと思って、今までのグランドデザインとガラッと変えたわけではないですが、少し整理をしたものになります。それからページめくっていただいて３ページから５ページが職員に向けてこういうことを意識してやっていこうねという、特に４月１日の日に話をしようと思っている資料ですけれども３ページの一番下のラインボックスが簡単に言うとここが授業を進めていく上で大事にしたいよねっていう部分です。生

徒自身がやらされているっていう感覚ではなくて、自分から主体的に取り組むような授業になるように工夫しようねということを、それから対話って小学校でも出てましたが、自分以外の人と対話をしたりとかあるいは教材との対話というのもあると思うんですが、自分以外のものとの出会いで新しい価値観に触れて視野が広がっていくというそんな場面も時には仕組んでいきたいよねって、そういったことが③番の深く学んでいくことに繋がっていくよねっていうようなことを、ちょっと心の片隅に置きながら授業をやっていこうねっていうことです。それから４ページ目のところでは、一番下のラインボックスになりますが、先ほど言った学校生活の一番の土台になる部分かなと私は思っているんですがまず①番全ての土台は安心で大桑中に自分の居場所があるっていう安心感があって初めて子どもは力を発揮できると思いますし、もっと言えば職員もそれがあって初めて自分の力を発揮できると思っているので、ここを大事にやっていきたいなと思っています。その安心の上で周りから認められるというのは自分の意見や考えを発表しても受け入れてもらえるという安心感があって初めて挑戦ができて、その挑戦できるようになると③番で大桑中の一員として自分に何かできることはないかっていう姿になっていくんじゃないかなと、ここは一番のベースで大事にしていこうねっていうことをまた確認しながら進めていこうと思ってます。最後５ページ目の下のラインボックスですけれども、ここは大桑中の職員として子どもたちと関わる際に、意識しようねっていうことを三つ挙げてあります。１番が子どもの良さを語り合う。子どものこういうとこできてないよねとか、課題って、つい見えてしまうんですがもちろん課題は課題として克服しなければいけない部分でもあるんですが、だからこそ逆にいいところを見つけてそれを教員同士で共有しながら良さを伸ばしていこうね、それを意識しようねっていうことです。２番目失敗が許される雰囲気というのは失敗できるっていう環境がないとなかなか子どもは挑戦できないのでそこはあえて失敗していいからどんどんやりなよっていう雰囲気を作っていこうねって、３番目が子供に感謝を伝えるっていうことも、以外に忘れてるんじゃないかなということです。感謝されると誰もが良かったっていう気持ちになるので、子供が何かやっているっていうことが当たり前ではなくてありがたいことだということで感謝を気持ちを伝えていくことが子どもにとっても意欲に繋がっていくんじゃないかとこの辺りを職員として意識してやっていきましょうという。そのあたりを大事にしてやっていきたいというふうに思っております。以上になります。

教育長　　ありがとうございました。この件について何か質問等ありますでしょうか。

出席者　　特になし。

教育長　　よろしいですか。続いて保育園からお願いします。

保育園長　保育園長の鈴木と申します。よろしくお願いします。お手元の資料ですけれども、保育園には、保育目標というものがあります。これは児童福祉法および保育園保育指針に基づきまして、定められておるところでございます。この保育園の保育指針ですが、直近に改正されたのが、平成 30 年に改正されております。これはおおむね 10 年ごとに改正されておりまして、次の改正は令和９年ということで、令和９年に向けて今検討が進められているところでございます。この保育目標につきましては、園児の望ましい成長のため、園と家庭の信頼関係を築くということ、それから１人ひとりの興味や関心を大切にして、園児の生きる力を育み、意欲や思いやりのある子どもに育つよう定められているものであります。一つが、元気な子ども、二つ目が夢中になって遊ぶ子、三つ目が、豊かな心を持った子どもということで設定をされています。大桑保育園の保育の特徴としまして恵まれた自然の中で泥んこ遊びですとか、水遊び、砂遊びといった五感を生かした体験、それから自分たちの手で田畑を作って野菜などを育ててそれを季節行事等に使って楽しく美味しく食べる食育、それから散歩・園行事などを通じて地域の住民との交流を深めている。年齢別の保育と縦割りの保育に組み合わせによりまして、子供の相互関係の集団活動の向上を図っております。リズム運動を取り入れまして基礎的な運動能力や身体体力の伸長を図っております。現在大桑保育園の保育に関わる課題としまして、それぞれの家庭の生活スタイルが以前より変化してきまして、保護者の勤務時間が長くなってきておりまして、早朝ですとか、延長の保育、それから未満児保育を利用する家庭が多くなってきているということです。また、食物アレルギー、アレルギーに配慮が必要な子も年々増加傾向にあります。こうしたことから保育士の人数も限られている中で、安心安全に預かり配置基準を遵守したシフト作成に現在苦慮をしているところでございます。こうした課題に取り組むということで裏面ですけれども、関係機関との連携ということで家庭や乳幼児期の成長を把握している保健師、それから子育て世代包括支援センターと情報共有を密に行って、心身の発達を図っております。必要に応じて専門機関へつなげたり、村全体で子どもの成長を見守っているところでございます。食に関しましては管理栄養士による献立を自園で調理し、食物アレルギーに対応し、アレルゲンとなる食べ物は完全除去をしております。就学に向けた小学校との連携ということで、園児と児童の交流を通じ、安心感と期待感が得られるよう学びの接

続を図っております。就学前に校内の事前見学の受け入れを小学校へ依頼するなど保護者と園児の不安感を軽くする取り組みも行っております。保育要録を作成し小学校へ園児の様子を伝えております。令和８年度から新しく事業が大桑保育園の方に入ってまいります。これは全国的なものでございますけれども、こども誰でも通園制度という制度、乳幼児等通園支援事業ということで、これは全国で実施されるものであります。全ての子供の育ちを応援し、子どもの良質な生育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、保護者の多様な働き方やライフスタイルに関わらない形での支援を強化するため創設された新たな制度ということです。これは対象者としましては保育所に通っていない。６ヶ月から満３歳未満の幼児が対象となります。利用方法としては月 10 時間の枠内で時間単位で柔軟に対応利用可能ということであります。これと似たようなもので一時預かり事業がありますが、保護者の立場から必要に対応するものであるのに対して子ども誰でも通園制度は、保護者のために預かるものではなく、家庭にいるだけでは得られない様々な経験を通じて子どもが成長していくように子どもの育ちを応援することが主な目的となっております。２枚目ですが、一時預かり事業というものがあります。これも来年度、保育園の方で新たに始まる事業でございますけれども、保育所等において利用児童数が定員に達していない場合に定員の範囲内で一時預かりを実施していくというところでございます。先ほどの誰通の方は６ヶ月からということでありましたが一時預かりにつきましては 10 ヶ月から就学前までということで預かることになっております。家庭において保育を受けることが一時的に困難になった乳児または幼児について主として昼間において、保育所等の場所において一時的に預かって必要な保育を行う事業ということであります。次に園児数と職員の構成ということでありますけれども、未満児が現在 20 名、以上児３歳４歳５歳につきましては 54 人、計 74 人ということで、お預かりをしているところでございます。職員の配置につきましてはご覧の通りでございます。来年度小学校に上がる園児が５歳児 19 人、来年度保育園の方に３歳児として入ってくる子どもが２歳児 11 人となっておりますが、３歳児として 18 人入園するというような予定になっております。保育園からは以上でございます。

教育長　　この件について、何か質問あればお願いします。全体を通して何かあればお願いします。

教育長　　先ほどちょっと子どもの数が減っているというお話しをしましたが、園長の方からも、来年度３歳児に上がってくる子どもが 18 人ということなんだけども、そこから下が一段と数が減ってくるんですけ

どもその子どもの数が少なくなってくる中で重点に何か置いてることがあるか。特に配慮するところがあるか、ちょっとお聞きをしたいです。

小学校長　　やはり１クラスの人数が少ないものですから、それで中学卒業まで同じ、ほぼほぼ変わらない人間関係の中で過ごしていくのでどうしてもいろんな人と関わる経験が少なくなってしまうので、小学校の方では来年正式にやるというわけではないんですが、少しずつ意識してくださいっていうことで現在も少しやっているんですけども連学年１・２年、３・４年、５・６年で一緒に授業をする。そうすると異学年の関わりもできてきますし、隣の学年の先生とも関わることができる。それだけの目で子どもたちを見ることができる利点があるかなと思いまして、今もう既に始めているんですけども、来年さらにその連学年の学習を充実させていくように先生方にはお願いをしているところで、さらに深まれば正式に連学年担任制みたいに考えていってもいいのかなと、現在はそういうふうにしていくまでは決めてはいないんですけども、そんなふうなことで進めていくのもありかなということで、今少し研究といいますか、ちょっと試行錯誤しているところです。

中学校長　　中学校はこの１歳児２歳児３歳児さんが中学生になるにはまだ 10 年ぐらいあるのでちょっと先の話ではあるんですが、やはり人数が少なくなってきたときに関わる範囲が狭まるということが非常に心配で、そうなってくると地域の方にも今以上に学校に関わっていただいて、地域の方が当たり前にいて、同学年の子ども同士の関わりとか一つ上・下の関わりだけじゃなくて、幅広く関わっていくというようにしていかないとなかなか子どもたちも息苦しくなってしまうんじゃないかななんてことを考えてます。学校ではどうすることもできないんですが、行政を超えた、区域を越えた中でどうしていくかっていうような、この木曽の広域の中でどうしていくかっていうようなことも長期的には考えていかなければいけない課題にもなってくるのかなとは思っていますが、今の大桑中学校でやるとするとやっぱり関わるということを広げたいなと思います。

村　長　　池井先生の方からは何かあるかな。

教育長　　それでは教育相談支援員という立場で、今の様子ですとか、来年度に向けた課題が何かあればお願いします。

支援員　　小・中を定期的に見させていただいて、両管理職の先生、校長先生方を中心に、本当に子どものことをよく見ていただいてるなっていうのは感謝申し上げます。最近の思うところなんですが、0か100かの繊細な子、例えばここをこうしたらいいよって先生に言われたら、全否定されたと思ってしまうようなメンタルの子、またそういう子の繊細な親、あるいは繊細な先生、繊細なんだけど、相手の気持ちは理解できない子、そういった子どもが増えてきているのかなというのがまず一点です。あと２点最近感じていることをお話します。一つ目ですが、来年度に向けてもあるんですけど不登校児、生を出さない。不登校に一旦なってしまうと長期化します。１年や２年で終わらずに、小学校でなった子が中学に持ち越してそのままいっちゃうケースも少なくないと感じます。それにはきっかけはいろいろあると思うんですけど、原因がなかなかわかりづらいので対応ができないっていうのもあるのかなと思います。不登校を減らす方法としては、わかる授業、どの子もわかる・全員わかるということですね。わかりやすいじゃなくて全ての子がわかる授業をしなければいけないのかなと思います。そしてさっき校長先生のお話、子ども主体の授業目指しておられるということで、子ども主体の授業をするということは、教師のスキルが非常に高くないと難しいなって感じます。子ども１人ひとりの意見を汲み取ってそれを授業に組み立てていくわけだから、今までだったら、教科書の指導書みたいなのがあって、それで先生方も授業できたんだけど、それが今度できなくなってしまうかなという点です。それと不登校の子に対応していて思うのは、不登校時の学力保障をどうしたらいいのかなということです。不登校児は、学校に来ないので、下手をすると、そのまま放っておかれてしまう。１年２年３年とずっと過ごしてしまう。小学校は卒業したんだけど、中学校なってほぼ不登校で通信制の高校に行った子の勉強をお手伝いしたんですけれど、高校は74単位取るんですよね。どんな高校でも普通高校でも74 単位取れば卒業で、その子小学校は卒業して中学校ほぼ多分行ってないんですけれど、小学校の学力あれば、中学校のレポートって結構できるなと思いました。でも数学とか英語は難しかったですねちょっと自分も関わってみて、その子が行っている高校は、レポートの合格点がそんなに高くないんですよ。通信制高校は、そんなに難しくなく、卒業できるんだなと思います。でも高校の卒業の資格を取ったからといって、それで生きていけるかってとこが問題だと思うんですね。生活できるか、仕事できるか。通信制高校出た子で、自分今でも続いている知ってる子は１人しかいないんですけれど、大抵は入ってすぐ辞めてしまいますよね。それはちょっと理由もわからないんですけど、辞めてしまって、アルバイトあるいは家にこもってしまう子になるのかなって思います。２点目です。強い子に育てるっていうか、自分で自分を克服できる子に育

てるには、読書って必要なんだなと思います。読書する子はすごくストレスに強いと思います。それはいろんな本を読む中でいろんな体験をして、自分自身に語りかけて解決策を見出すヒントを得ることができる読書というのは。最近の子は、結構読書しなくなったなと思います。もちろん読書の時間を取っていただいてることはわかりますが、図書館の姿を見てると、借りてる子いるのかなってのも感じますし、そういう意味で親子を含めて読書していく。というのがすごく大事なのかなと思います。ちょっと以上まとまらない話でありますが今、その２点感じています。

村　長　　池井先生のお話を聞いて、行政で、例えば、何かできることは何かないのかなって、私も不登校になる子どもがまさにその時点から不登校になったよねっていうのが小学校の職員室の上の階段の踊り場のところにいて、その男の子はそこから教室には入れなくなって、だんだんだんだん中学も全く行けなくなったのをまさにその始まりのところを見てて、あのときになんとかしておけば、たまたま私が見た時点で、それが始まったのかなって家庭まで私達は知っているので家庭にどういうふうに今の先生の今の読書の問題、読書にしても、不登校の始まりだとか勉強についていけないとかっていうときに、家庭にどんなふうに入っていけばいいのか、学校の先生方では全てを担いきれないと思うんですがそこんところ、家庭にどう働きかけていったらいいのかっていうことは先生の様々な経験の中ではどんなふうにお考えですか。

支援員　　自分この仕事をさせていただく中で、大桑の保健師さんって最高だなと思います。自分がかつて経験したことないほどしっかり考えて、保護者とも連絡とってそれはもう、子どもが生まれる前からお母さんと連絡取ってるからですよね。そして結構強いことも言います。親に対して、そこは信頼関係ができてるかなと思います。だからまず保健師を手伝っていただくのは一つというのと、あと自分がこの４年間の中で感じたんですけど、中学の先生でも異動されてしまった先生なんですけど本当にしょっちゅうその子の家に行っている先生がいました。誕生日になればアイスクリーム買ってでも、もう食べたとか言って。受け取ってもらえなかったとか、そういう熱心さというのが必要なのかなと。もちろん拒まれてしまえば駄目なんですけれどそういう何とか地道な努力というのも必要であるんですけど、もちろん働き方改革というのが係わってきますので、そこはできなく難しいこともあるかもしれない。あと今小学校で教室不適応を起こしてる子、支援級もあるんですけど、教頭先生が係わって遊んでくれてたりとか、そういうこともあるので、学校の中での資源を使いつつ、合う合わないもあるもんですから、そういう手もあ

るのかなって感じはします。

村　長　　ありがとうございます。今日午前中、まめっこにちょっと顔出したら、二、三人の子どもがいて、まめっこの保育士さんたちと話してると、やっぱり子育て支援よりも、親育て支援をどうしていくのかっていうことが大きな課題であるなというのは私も感じ、その中で行政としては何をしていったらいいのかなっていうことは思っているんです。保育園やまめっこあたりの課題がだんだん成長につれて、同じように見ていけるかっていうとなかなか難しいところもあってそうかといって、授業がしっかりわかるまでわからない子についていると、伸ばす子が伸ばしきれなかったりということも考えると、行政としては私が教育長のころから支援の先生たちをいろいろついてもらってやってはいるんですけど、なかなかそうは言っても、課題があるのかな。またいろいろ今この場じゃなくても、またいろいろお気づきの点は出していただきたいなと思います。

支援員　　ちょっと今のところ全員同じように到達点に達すると難しいと思います。確かに個々なので、だからそれぞれの目標があっていいと思うので、そこの目標まで達すれば授業はいいかなと思います。

村　長　　木曽広域連合では、公共交通のこと。それから観光振興のこと。これを長野県も入って、広域連合として進めようとしております。この４月からは、県知事の名前で、木曽広域連合に入って会議に出席するのは、振興局長が出ますけども、議員も各町村の議員の他に加えて、県議会議員の中から１人木曽広域に参画をするということでもう一つ、去年から振興局の副局長が中心になって、教育の問題をどうしようかということを話し合いが始まってまいす。校長会長が出席されておりますけども、前年度で生まれた子どもが木曽全体で 70 人。単純に計算すれば１学年２クラスあれば、木曽郡の中で全部やっていける人数です。だけど、これだけの広いところで広域的に何をするのかっていうのは、論点がまだどうしてもまず定まってこなくて、私も何から発言したらいいのかちょっと自分でも整理できないところもありますけれども、例えば木曽の中の南部が１ヶ所中部に１ヶ所北部に 1 ヶ所ぐらいの学校にするという方法もただこうやっていけばあるのかなというふうに思ったりもするんですけども、この 20 年くらいに、木曽郡内の学校施設はみんな新しくなってようやくこれから学校やっていくというときに、南木曽の子供たちは大桑小学校か大桑中学校へ来なさい、上松も来なさいというような話はとてもまとまらないと思うんですよね。広域的に今の出生者数と、それから今後の学力の保障みたいなこともありましたけどもそういったことも含めて確かな学力を保障することとともに、やっぱり楽しく子ど

もたちが学べるっていうことを考えたときに、片道 30 分か 40 分かけてバス通することが本当にいいのかどうなのかと、確かにコスト計算すれば、どこか１ヶ所にまとめた方が安く上がるだろうし、場合によったら、先生も同じ学年で２人配置できれば、もうちょっと習熟度を見ながら授業を展開していけるかもしれませんが、今全部単クラスになっているのでそういったところがね。今後、県が関わって、木曽みたいなところをどうにかしていきたいっていうのを、県の見方なんです。下伊那もそうなんですね。町村合併ができないようなところの、その教育問題をどう解決していくかというそういう話はこれから県あたりからどんどん出てくると思うんです。それを出てきたものにそうですねそうですねってやってるわけにはいかないもんですから、どうあるべきかをまた、今日全てを議論することはできませんので、お気づきの点、あるいは校長会の中でもいろいろ議論をしていただいているとは思いますけどまたそんなことも私達に知恵を授けていただきたいなと思ってますので、よろしくお願いします。

教育長　　今のことで何か。

中学校長　難しい問題ですけど、小人数の良さもありますし、大きい方ができることもあったりするし、単純に数の問題でくっつければいいやっていう単純なことではないのでそれこそ自分が生まれ育った郷土を愛するっていうことも大事だからなかなか難しい問題。５年 10 年は良いけど 20 年 30 年という先を考えていくとそもそもの労働者の人数が減ってくるから教員も確保できなくなるんじゃないかという、そういう長い目も考えなきゃいけないし大変難しい問題だなっていうことを今感じてます。

村　長　　教育委員の皆さんからも何かあればお願いします。

白木委員　新しい教育課程になってね。学校で授業を見させていただいてる中で、先生方一生懸命にね、その小学校ならば、自ら学ぶということはね、対話を通して自らから学ぶ。中学校でいけば、その対話を通しながら主体性というようなことで取り組まれているのは、よくわかるようになってきましたですね。ということは逆に言うと、私も自分で経験してきた中でいくと、それこそ先生と生徒が相向いで進めていた授業では、全くない。それもあるけれどね。それから脱却していこうという動きだと思うんですよ。そうすると、その中でこれからの教育は一体どこの方向そっちの方向へ行ったときに本当にその力はね。子どもたちにそれだけの対話だけの力で昔の言っていたその学力っていうね、この学力をもしこの対話でもって、プラスの中で子どもたちがこれやってるのでいいとする

わけには私はいかないと、個人的にはそこには対話だけで得られない。なんていうかな、学力知識の面もあるだろうしそういうことを言ったときに、それをやっぱり一番真剣に考えていくのは教師だと思うんですよ。その教師が考えていかなきゃいけなかったときに何が起こるかっていうと、小学校についても中学校についても、若い先生はとても多い。しかも学年で２人いるわけではなくて、多分１人自分でやっていかないといけないときに、この今の学ぶっていうことをね。こうやっていくときに、先生方は大いに悩むだろう。この悩みを先生方がどうやって解決していくのかっていうことを私は大きなことだろうと思うんですよね。何か最初はやるんですよね。でもそれが、時が経つと、やはり悩むことが出てくるわけですよね。そういうときにやっぱり先生方がなんていうかな、やっぱり仲間の意識をね。教員の資質を向上させていくっていうことが一番大きなことになるかなというふうに思うんですがね。そこら辺のところをね、若い先生方で、しかも講師の先生が多い中だと１年で代わってしまう可能性が非常に高い。そうすると、大桑の子どもたちが今の小学校・中学校で考えられているような、この目標に向かっていくときにやはり大きいなっていう。そのことがね大きなことにものしかかってくるなっていうことを思うんですよね。だから、私は授業を見させていただいてね。先生方、やろうという姿今までだったら本当にこういう場面多かったなここは新しい教育課程があって年数はまだなったばかりですからあれですがやろうとする姿が見えて嬉しいんだけど逆にそれがある面で言うと、不安な面もあると思いますね。そういう不安な面は先ほど池井先生がおっしゃったように、やっぱり不登校の生徒が、学力つけなきゃいけないということはわかるわけですよね。だけど、この子供たちが、その学校の中へ来たときに、対話の授業の中に果たして入っていけるかっていう不安もなきにしもあらずですね。そうすると、不登校の子供たちをどうやって救っていくのかということを、力をつけていくかっていうことを大きなことだなっていう感じますね。私の知っているある不登校の子どもさんは、学校へほとんど行ってなかったですね。通信制行って先ほど同じ通り辞めてしまいましたよね。だから、本当にどういう方法をとっていくことがいいのか。大桑だけの問題じゃなくて、それこそ全国的なしかも新聞資料によると 3000 人の不登校生がいるという結果。これだけのことは大変なことなんで何かしらいい知恵を出し合えばいいかなと思います。だから、児童生徒数が減ってくるのに、不登校生のパーセントがね、多くなるっていうのは、これは大変なことだなっていうふうに思ってますけどね。あの感想ですかね。

教育長　　他の皆さんどうですか。

松尾委員　　今まで皆さんのお話聞いて思ったことですけど、先生方の中でもお話出ました、良さを認めてやるっていうとこが簡単なようで難しいなって思います。学力って何だろと思ったときに、その子の良さって計り知れないものもある。いいところを見つけてやって、親と会話するというか、私一時期不登校だった、学校に行けなかった子が行けるようになったというきっかけを担任の先生が代わったときに、学校から電話をするときにいいことを伝えた。学校からの電話は、どちらかというとマイナス面が多いと警戒されるんですけど、いいことを伝えてもらう。できるだけいいことを見つけて伝えてもらうことで、親の気持ちは、親っていうのは根本的には変えられないけど、対応は変えられる。努力によって多少なりともそんなようなことを言ったことが一つ不登校の話で。それからもう一つは白木先生もおっしゃったけど、一番は中学校とか小学校の中にも出てきましたがわかったとか、できたってことは、もっとシンプルに考えていいんじゃないか、わかる授業って何だろう。特に若い先生が多い場合、いろいろ難しいことを言われて対話的とか、文科省から降りてきたとか CS から言われることじゃなくて、我々が子どものときもできてよかったなとか、わかってよかったっていうのはもっと単純なものじゃないかなって、わかる授業とかできる授業って何だろうかっていうことを思います。いろいろやらなければいけなくて今の先生方本当に大変だなと思うんです。電子黒板を使わなければいけない。新しいものが入ってくればやらなければいけないって思うんだけど、もうちょっとシンプルにわかる授業って何だろう、そこら辺を特に若い先生方に提示してあげるといいのかなと思います。あと、読書のことも思いました。読書の効用、ある専門家の先生は読書の効用が 10 個あると。1 個 1 個見ていくと本当にすごいな、あの学校というのは忙しすぎて、本当に読書の時間って確保できているか、図書館へ向かう時間が子どもたちに本当にあるのか、休み時間子どもたち何してるだろうかって見たときに、他のものに興味がいって費やしている時間が多いんじゃないかなっていうなこともちょっと心配されますよね。不易なものって何十年何百年たっても変わらないだろうけど、池井先生おっしゃった通りで読書力ってやっぱりすごいし、我々も目に見えないけどなんか栄養になって生きるためのバックボーンは多分本とかそういうところの出会いがあったんじゃないかなと思うんですけど、そこら辺の時間をもっともっと大事にとって今もしていただいてると思いますけどそんなことを思いました。

教育長　　はいありがとうございます。他よろしいですか。

保育園長　　読書の話なんですけれども、まさに今日、保育園ではお話の会という会を開きました。これは年４回やっていただいておりますが、平中先生、

それから図書館の牧野先生、原田先生、さくま先生、この４人の方に来ていただいて園児たちに絵本を読んでいただくということをやっております。その中で今日も先生たちと話をしたんですけれども保育園の子、前に比べたら落ち着いて聞いてくれるようになったなという話をされてました。絵本っていうのはすごく大切なんだとお母さんたちが子育てするにあたって、どうしてもスマホで動画を見せたり、動画の方へいってしまって漫画を見せたり、いろんなそういう子どものお好きなものを見せたりして、静かにさせておく。その方がお母さんたちは他に仕事ができる。今度本になるとお母さんやお父さんたちが読んであげるという作業が出てくるのでなかなかそういったふうにはならない。でも、本を読むということは子どもにとったら、その絵を通じていろんな発想をしてくる。いろんな想像力をつけてくるというようなところもあってすごくいいことなんだと、先生たちはおっしゃってました。保育園でも何かできないかなと思っても、なかなか保護者一同を介して、３歳４歳５歳、それから未満のご家庭の皆さんに集まる機会ってのがほとんどありません。ということになれば、できれば未満児の２歳の参観日講演会のときに４人の先生に来ていただいて、絵本の大切さっていうのを講演していただいて、ぜひお母さんお父さんにも本を読んでいただいて、本の好きなことをしていけたらいいかなっていうようなことで、ちょっと来年検討できたらいいかなというふうに今日感じて、絵本の会を聞いておりました。以上です。

教育長　　ありがとうございます。本のことに関して大桑村では、子どもが生まれてからずっとプレゼントしておるわけですけども、４回渡しております。最初生まれたとき、１年生に上がったとき、小学校４年生と今まで中学２年生でしたが、今年から３年生にプレゼントするということでやっております。２か月の健診のときにファーストブックを渡しています。そんなときからもきっかけを作りながら読書をするようにということ。大桑村は昔から読書に関係する人がたくさんいて、読書の場はたくさんありますし、庁舎を作ったときに、大桑村図書館も併設して、木曽で二つ目の図書館としてやっておりますけれども、まだその子供の利用が少ないようで中学生はたまたま学校の帰りに寄ったりして来ておるんですけども、小学校の子供たちはまだまだ利用が少ないようなこと言っていましたので、ぜひ利用をされるように仕向けていただいて、利用していただければいいかと思いますのでよろしくお願いします。

細田委員　　親の立場でしか意見が言えないんですけれども、最近の同じぐらいの年代のお母さん方、今成人した上ぐらいの人のお母さんたちと喋るんですけど、年々子育てにすごく手厚くなっているねっていうことをすごく

言っていて、悪い話だと私達のときにはこれなかったよねみたいな話しなんですけれども、逆に言えばそれだけすごく手厚くなっているってみんな思っていまして、他の市町村でないこんなことがあるよねとか、こんないいとこだったら何でもっとみんなここ来て住めばいいのにねなんていう話をすごくしています。本のことも原田先生から始まって、今は平中先生やさくま先生などいらっしゃって、やっぱり他の市町村の方からもいいねっていうのは言われます。私昔、子供が小さいときに山口村にいたんですけれどもそのときも原田先生がわざわざ来てくださったりとかしてたぐらいなので、子育ての姿勢の手厚さは本当に感謝してる人が多いんじゃないかなっていうところです。先日の広報おおくわに部活動地域移行のことの説明がすごく詳しくてわかりやすかったなと思ってまして。あれがなんか学校のこれからの再編そのヒントに少しなるのかななんて思いながらさっきのお話を聞いていました。小学校中学校とも今のタブレットを使用されていて、たまに参観などでみてこれは難しそうだなんて思って見ているんですけど、子どもたちが使いこなせているものですから、それにびっくりしていてノートの代わりがそれにもうどんどんなっていって、いいことだと思うんですけれどもせっかく中学校までやってもらっているのが高校なんかだと、今のインフルエンザとかで学校閉鎖とかが長いんですね。この前も学年閉鎖も４日間とかあってほとんど学校に行けないときに、なぜタブレットで勉強しないのかなって本当に思うんですけど、今の小学校や中学校の勉強の仕方だったらきっと何かこう、遠隔でもう少しこうできるような学力的な面だけなんですけども、タブレットとそのご家庭の結びつき、あと先生との間で何かちょっと違うこともできるかななんて思ってみたりしました。あとはメンタルの問題は本当に私なんかも介護やっていると同じ問題に遭遇するんですけれども。ご家庭に入るっていうのは本当にプライバシーの問題もあって非常に難しくて学校や友達のお母さんとかでも考えるぐらいなので非常に難しいと思います。本当に一生懸命皆さんやってくださっているので良い所に住んでるなっていう気持ちはありますのでそれだけお伝えしたくて。ありがとうございます。

石其委員　　私、教育委員になってまだ浅いんですけど先ほど先生たちのお話の中で、多様性を認めながら、誰もが居心地の良い所とおっしゃられたときに、非常に難しいんだろうなっていうのがまず思って、教育関係の職場ではなかったんですけども私も今まで接する人間関係の中で、結構わがままじゃないのっていうところには、直面したことがあって、先生たちにどのようにやられてるのかなと思ってお聞きしてみました。それで、個々の人間なので受け取り方とか、そういったところで差があると思うんですけれども学校とかで何か問題があったときにこれはおかしいよ

ねって言えるような、そんな場があるのかっていうところ。例えば私、３人子供を育ててきましたけれども、ちょっとトラブル、友達同士のトラブルがあったときに先生が自分で私が解決しますからって言ったっきり、そのまま終わってしまったとかいうところも今、時代が違いますけれども、そういったところを経験した中で、非常にご苦労があるのかなというふうに思っています。教育委員になって初めて不登校の子供がそんなにいらっしゃるんだなっていうことを知り、これは学校だけで解決できることでもないし、家庭だけでも解決できることでもないので、うまくお互いに協力し合って解決していかなければいけない問題だなと思ってはいるんですけど、先ほどの社会に出てから、今、私達あんまり外から見えないけど、引きこもっている子って成人でも結構いらっしゃいますよね。そういったものを見てて親はずっと関わっていかなければいけないから、その辺大変なのかなって改めて今日ちょっと会議を聞きながらそんな感想を持ちました。

中学校長　　本当にいろいろな子供たちがいて、子供たちの居心地がいい学校を作りたいっていうもちろん思いはあるんですが、その背景にあるのは、学校にこれなかったとしても、どこかに繋がりがあればいいなと思うんですが、全く繋がりがない、作りたくないっていうのがとてもありますね。中学校はもうここで義務教育が終わってしまう、ある意味そのまま世間に放り出されてしまうところがあるのでそこを何とか避けたくて、学校はこういう場所があるよ、それから村の方でもいろいろ先程の保健師さんもそうだし、いろいろ関わってもらって、何かしらの関係作ってから高校に行って、続かなかったとしても繋がりがあるっていうとこは保ちたいっていうのがあって、中学卒業したあとは、中学校ではどうしようもできないところがあるので、そこら辺を今もやっていただいてるんだけども村としても高校に行ったから安心じゃなくて見てもらっているんだけども、なんかそれって村の形っていうふうに大きく繋いで見ていくっていう体制を今やっているのをさらに強化して、やって行ってもらえると大人になって引きこもってしまうとかではなくて、どこかと繋がっていれば何かしら仕事があって働いたりとかできると思うんですよね。中学校ってそこがやっぱり何とかしなきゃって思いがあって今いろいろと村にもお願いしたりやっているところですね。そこは学校だけではなくて本当にこういう場とかいろいろな方に関わってもらってそんな意識を持ってもらえるとありがたいですね。隣の方が声をかけるとかそれでもいいと思うんですよね。それはちょっと大事にしたいと思ってるところです。

教育長　　他、よろしいですかね。今日のテーマは、来年度に向けたということ

なんですけども、せっかくの機会でありますのでどんなことでも結構ですので、何かあったらお話いただきたいと思います。

小学校長　今すぐ動いてくださいとかではなくて、こうなるといいなっていうことでもいいですかね。先ほどの不登校にも関わることなんですけどね。本校もなかなか来にくい、全く来れてないんですけども本当は学校に来れば何とか過ごせる子どもも何人かいるんですけど、学校への行き来ががができないというか、それでこれないっている子も何人かいて送ってきてくれれば何とかなるんだけど、家庭の事情で送ってくれない。でもスクールバスには乗れない。そのあたりのなんだか不登校の子どもたちの通学に関わる人、交通手段みたいなのが何か充実させてまた考えていただくと若干不登校の子供たちの環境にもいいのかなとか。学校に来れる環境が高まるのかなって、そうなるといいなっていう思いが一つと、先ほどの池井先生のいろいろ話があったんですけど子ども主体の授業って先生たちのスキル高くなければいけない。確かなんですよね。白木先生も本当に対話だけでいいのかっていうようなお話があったり、若い先生方の授業力のアップもこれは私個人的に願っていることこなんですけど、まず小林校長先生とも全然話はしたことないんですけど、子供主体の教育になっていく中で、目指して今行こうねって言ってやっているところなんですけど県から指導主事等呼んでも授業も見てもらってるんですけど、ちょっと個人的な考えなんですが、専門的な先生、お金かかったりするんですけど、そういうとこに来ていただいて小中一貫して何か子ども主体の授業のためにとか、対話しながらどう学力をつけていくのかとか、主事の先生ももちろんなんですけど、一貫した何か物があって、小中足並み揃えて、この村でこういう姿を目指してどういう取り組んでいっていただいていけばいいかなみたいな指導がいただける先生を招聘等できるとありがたいかなと思っているところです。今、本校でも対話を中心とした学びということで私、３年間行ってきて、ようやく先生方も対話を意識し始めているんですけど、そこでつまずいちゃっていて先生方から出てきたのは、対話を中心とした授業によって、具体的には本とかも配っているんですけど、やっぱそれじゃわかりにくくて、見に行きたい。でも、どっか見せていただきたいって言って。この郡内の対話を中心とした学習なかなか取り組んでるところがないもんですからちょっと遠くへ行こうかなって今話を出してるところなんですけど、運動会の後の休みのところを使って、先生たち全員でちょうど子どもたちも休みだし、見に行こうかというそんな話までは全然具体的にはなってないんですけどそんな話だったりあるのでなかなか本当の指導者だったりとか、みんなで揃って勉強できるような環境が少しずつ整っていくといいな

なんて個人的に思ってることなんですけど、そんなことを今思ってるところです。

村　長　　今先生方の勉強をするような、どなたか講師を出してやるっていうことはあまりない。

小学校長　　県の指導主事の先生に来ていただくことはあるんですけども、その他の大学の先生とかっていうと、ちょっとお金がかかってしまうもんですからちょっとハードルが高い部分があるんですけど。

村　長　　不登校のことだとか、私はその先生方の努力はもうあれなんだけど、家庭の人たちがちょっと意識を持ってもらいたい家庭こそ来てほしいのだけども、なかなかそういう人は来ないんだろうけども家庭も含めて、もし講師を呼ぶための謝金が必要であれば、また教育委員会に相談してください。そういうことで少しでも先生たちはもちろん保護者の人たちのね、学力がついていけないっていうときに、家庭で少し助けてやれば子どもたちもいけるっていう子もおると思うんですよね、そのあたりのその保護者の教育もどうしたらいいのかっていうことも保健師たちもいろいろやっているんですけど、なかなか物事はは解決していくことはなかなかないようなもんですからそういったことも含めて、もし必要なことがあれば、それはぜひ言っていただいて、こっちも内容検討したいなと思ってますので、ぜひともお願いいたします。

教育長　　他よろしいでしょうか。

村　長　　いろいろな貴重なご意見いただきましてありがとうございました。私から一言お礼を申し上げたいと思います。私よく役場の職員の採用とかで、ずいぶん前から君は本読むか。本を読むって言ったら何を読むか。最初の 10 何年前くらいはちゃんと答えていました。本っていうところは最近新聞読むかねっていうとね。新聞はもうスマホで見てるから読まない。もう最近は面接でこの立場になってからは、森林組合なんかもそうだったんですけど、絶対、読書のことは聞きません。大体読んでないんです。新聞もとってないです。結構な年齢の社会に出ていろんな人に聞くと、50 代ぐらいの人に新聞取ってると聞くと新聞とってないと言うんですよね。新聞は隅々まで見るところにいい記事がいっぱい書いてあるんだけど、それが新聞の良さであるなと思うんだけど、スマホのニュースは自分の好きなニュースだけを見るだけで全く自分の栄養にはならないんですよね。ですから、最近の面接

では本読むかとかそんなこと聞かないようにしておるんですけども。特にこの中学校の３ページにも書いてありますが、ますますAI等の進化が技術進歩ってありますけども、もう10年近く前に国の何かの機関が2045年問題といって、AIが人間の陣地を超えてしまう。人間がこうしようって考えるとそれは間違ってますよ。こうしなさいああしなさいっていう全てAIが判断できる社会が来ると。そうすると、人間って勉強しなくても、AIが全部判断してくれれば、おそらくあんた腹が減った頃だからAIが食事を届けてくれるような、どっかの作業を少しあればお金が入ってくるような例えばそんな時代はひょっとしたら来るかもしれません。そうなったら、人間は何のために生きてるかわからないっていうことになるわけ。そういう中で考えたときに、タブレットやいろいろな今の技術を使いながらも勉強すればいいんだけど、この自然の中で野山を駆け巡ったり、田んぼや保育園行けば園児が野菜作ってますし。そんなことを含めたところがAI以上の勉強というか、人間らしい知識や生きる力がつくのかなっていうふうに思うんです。それは読書なんかもそうです。読書を通じて体験できないことを体験できたり、私もそのセカンドブックだとかサ―ドブックだとかって始めたときにも、親子で本を読めるというのは、個人で読める力は小学校の高学年になってくれば本読めますけども、低学年くらいまで親子で子供の目を見ながら本を読んだり、顔色見ながらやるっていう時間を作ってもらいたいがために、セカンドブックをプレゼントしたんですけどもなかなか育ってくる人たちは、本を読まない新聞を読まないという、こうなっててこれでいいのかなとつくづく思うところがあるんですけども。そういったことを困った困ったでは、私もいけないと思いますので、できるだけ先生方のスキルを上げたり、家庭の人たちの新たな子どもの接し方を勉強するとか、いろんなことのそういう機会はぜひ作っていきたいと思いますし。パソコン、AIだけで暮らすようじゃなくてやっぱり学校で保育園で子供たちがちょっと友達とストレスを感じながらも対面で喧嘩しながら、育っていくっていうのが、学校や保育園の良さだと思っていますので、もう社会へ出れば、かなりそれはシビアな世界で生きていきますのでそういった意味では、この保育園小学校中学校というのは大事なところだなと私は思っていますので、行政のできることは、できるだけ極端に言えば、やれということは何でもやりたいなという気持ちではおりますので、ぜひともまた私に知恵を授けていただきたいなと思いますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

教育長　　それではどうもありがとうございました。年度末に向けていろいろと大変な時期かと思いますが、新年度に向けてよろしくお願いしたい

と思います。それから、中学３年生、明日ですが、村長との懇談会ということで、６年目になるわけですけども去年も相当なやり取りをして時間を１時間くらいもオーバーして閉会したわけですけども、それがまた明日の午後あります。３年生今日、前期の発表が 13 時にあったので、もう結果が出ていると思いますけども後期の試験もこれがあるということで大変な時期だと思いますけれども頑張ってもらいたいと思います。今日はどうもありがとうございました。